リーグ戦文化の定着が日本のサッカーを変える!!

ADVANCE Vol.2

『リーグ戦』がある環境

フューチャーリーグU-13 開幕！

フューチャーリーグが始まりました。3種年代で8人制という賛否両論ある中でのスタートです。ＦＩＦＡには「ＳＳＧポリシー」（スモールサイデットゲームポリシー）という物がありU-12以下では少人数によるサッカーを推奨し､11人制を認めていません。ＪＦＡもそれに倣い、少人数ゲームの推奨、全日本少年サッカー大会の8人制化を推し進めました。8人制の方が11人制に比べてボールタッチ数が多くなる、ゴール前の攻防が多くなる、一人一人の関わりが多くなる事は知られています。11人制でなければサッカーでない。あれがなければできない。これをやってくれたらできる。ではなく、今ある環境で目の前の子どもを上手くする。8人制のデメリットを数え上げるのではなく、メリットに目を向けて、最大限の効果を発揮できるように努力したいと思います。フューチャーリーグを作る側に関わって来たメンバーとしての思いです。　（3種委員会：上野二郎氏）

VOICE

加美FC（大阪市立加美中学校）　山崎郁夫氏

このアドバンスリーグが長期間（5月～9月）にわたってリーグ戦が組まれているという点に魅力を感じ、今回参入を決めました。

実際に数節戦ってみて感じた良い点は、リーグ戦で常に次節があるため、「次の試合ではこれを挑戦したい」、「次回はこれをしっかりと修正しよう」というポジティブな考え方を子ども達やチーム全体が自然と持てるようになれたことです。勝敗にこだわりつつも、チームや個の育成にも重点を置くことができています。

また、普段は対戦しないようなチームとサッカーができることや、普段では行かないような会場でゲームができるのも子ども達にとっては大きな刺激になっています。

今後はこういった経験を少しでも子ども達とチームの成長につなげていきたいと思っております。

アドバンスリーグ/フューチャーリーグ　ブロック分け

モルテン・アドバンスリーグ大阪2011ブロック分け

	1部	2部		3部		
		Aブロック	Bブロック	Aブロック	Bブロック	Cブロック
1	RIP ACE	KONKO	IRIS生野	柏原FC	TIAMO	ゼッセル熊取
2	千里丘FC	ショウエイ	SW泉州	FC江坂	門真沖SC	ジョイナス
3	長野FC	9FC高槻	高槻ジーグ	久米田FC	FC岸和田	グリーンW
4	ガンバ堺	RESC	東淀川FC	東海大仰星中	Erba FC	交野FC
5	エルマーノSC	大阪市ジュネッス	レオSC	AVANTI	高槻MYD	鶴見橋中学
6	川上FC	長坂FC	パルティーダ	リベルタ大阪	TAS FC	大阪狭山SC
7	岩田FC	FC平野	EXE90	明星中	住ノ江キッズ	ディアマンテ
8	枚方FC	盾津東	八尾大正	Sword	近大附属中	TSK SC
9	大阪セントラル	和泉FC	セレゾン	V松原	TOM　FC	ソシオ和泉
10	高槻FC	守口FC	太田FC	長吉SC	レグルス	VOLENTE大阪
11		柏田SC	A.C.Sakai	進修サッカー団	T-フジタSC	摂津FC
12		FCB2	Lazo			

	4部					
	Aブロック	Bブロック	Cブロック	Dブロック	Eブロック	Fブロック
1	DREAM	FCけまり	玉津FC	豊中FC	RFC	泉南セントラル
2	Passiolle	北河内FC	岩田FC 2nd	RIP ACE　2nd	RESC 2nd	長野FC　2nd
3	Matorix	エスペランサ	FC淀川	FC千里中央	北斗SC	レバンテ大阪
4	千里丘FC 2nd	エルマーノSC 2nd	COSMO	大阪今宮FC	フォスター箕面	島田FC
5	セレゾン 2nd	川上FC 2nd	富田林常盤FC	新北島Jry	ガンバ堺　2nd	ALVEARE
6	猪飼野	C.Abinan	大阪市SS2001	SETTSU1st	城南FC	関西大一中
7	茨田北中	同志社香里FC	志紀中	FC　Rio	ミネヅカーナ	レオSC 2nd
8	Suita 3rd FC	東我孫子FC	F.C.SHOKITA	FC香里	長吉西FC	ASL吹田FC
9	加美FC	FC Lien	賢明SC	山田FC	東大阪朝鮮FC	FC住吉
10	1 stF.C吹田	吹田６中	縄手南FC	上之島中	チェリーバレー	寝屋川SC
11	盾津中学校	初芝富田林中	ニュウFC	三国FC	住吉大社SC	KONKO 2nd
12					難波FC	瓜破中

フューチャーリーグ大阪2011ブロック分け

	1部	2部		3部		4部		
		Aブロック	Bブロック	A・Cブロック	Bブロック	A・Bブロック	C・Dブロック	E・Fブロック
1	RIP ACE	KONKO	IRIS生野	AVANTI	TIAMO	DREAM	玉津FC	RESC　2nd
2	長野FC	ショウエイ	SW泉州	V松原	門真沖SC	FCけまり	COSMO	レバンテ大阪
3	ガンバ堺	RESC	高槻ジーグ	進修サッカー団	FC岸和田	エスペランサ	豊中FC	島田FC
4	エルマーノSC	大阪市ジュネッス	レオSC	ゼッセル熊取	Erba FC	エルマーノSC 2nd	RIP ACE　2nd	ALVEARE
5	川上FC	FC平野	パルティーダ	グリーンW	高槻MYD	C.Abinan	FC千里中央	ミネヅカーナ
6	岩田FC	和泉FC	EXE90	交野FC	TAS FC	猪飼野	山田ＦＣ	寝屋川SC
7	高槻FC	守口FC	八尾大正	大阪狭山SC	住ノ江キッズ	茨田北中	賢明SC	東大阪朝鮮FC
8		柏田SC	セレゾン	TSK SC	T-フジタSC	盾津中学校	シューダイＦＳ	高槻如是ＦＣ
9		FCB2	太田FC	VOLENTE大阪		加美ＦＣ	吹田南FC	ＦＣ　ＡＲＩＳＴＡ
10			A.C.Sakai				FCマレッサ	貝塚FC
11			Lazo					

海外情報　～スペイン～

寄稿：湘南ベルマーレ南足柄　倉本和昌氏

まず、カテゴリー分けですが、図のように、ユース年代（3年間）を除いて2歳ごとに分かれています。各クラブ､通常一つのカテゴリーに2チーム（AチームとBチーム）持っており、年齢または実力によって選手を振り分けます。年齢が上のカテゴリーには制限なくいくことが出来ますが、下のカテゴリーに当然ながら降りることは出来ません。しかし、Infantil Aでプレーしている13歳の選手がInfantil Bのチームでプレーすることは同じカテゴリー内なので可能です。では、仮に同じカテゴリーに50人選手がいた場合はどうするのか？その場合は、シーズンが始まる前の段階で3チームに分けると協会に申請すれば問題ないのです。そうすると一チームの人数は16人前後となり、ほぼ全員が試合に出られるようになります。キーワードはみんな公式戦に出られることと負けても次の試合があること。

チーム	カテゴリー	試合時間	平均選手数
Juvenil（フベニール）　A	Juvenil（16～18歳）	45分x2	22
Juvenil（フベニール）　B		45分x2	22
Cadete（カデテ）　A	Cadete（14～15歳）	40分x2	20
Cadete（カデテ）　B		40分x2	20
Infantil（インファンティル）　A	Infantil（12～13歳）	35分x2	20
Infantil（インファンティル）　B		35分x2	20
Alevín（アレビン）　A	Alevín（10～11歳）	30分x2	20
Alevín（アレビン）　B		30分x2	20
Benjamín（ベンハミン）　A	Benjamín（9歳）	25分x2	12

公式戦はリーグ戦で、大人と同じようにホームアンドアウェーでシーズンを通じて戦います。16チームでのリーグ戦の場合、30試合戦うことになります。30試合の公式戦です。おまけに勝っても、負けても翌週には次の試合が保障されています。それが毎年行われるわけです。単純に計算すると8歳から18歳までで公式戦を30試合×10年間＝300試合も経験できることになります。しかも、選手のレベルに関係なく高いレベルから低いレベルまで誰でも経験出来るというところがこのシステムの素晴らしいところだと思います。

【リーグ戦を戦う事】

リーグ戦を戦っていくというのは、なんともいえない面白さがあります。長いシーズン、調子の良い時もあれば、悪い時もあります。出場停止や怪我人が出たりと常にベストメンバーで戦えるとは限りません。そんな中で、その瞬間、対戦相手、自分達の状況を考えたベストメンバーを選出しなければいけません。というわけで選手の層が厚く、波の少ないチームがやはり優勝争いに加わることが出来ます。言葉で書けば、簡単なことなのですが、実際そういうチームを作り上げるのはかなり大変です。そして、引き分けがあること。これもリーグを面白くしている要因だと思います。

最初にも書きましたが、シーズンを通して多かれ少なかれ波というものがあります。例えば、アウェーのグランドで朝早く1時間以上かけて車で移動し、すぐ試合をしなければいけないような状況。おまけにグランドの状態は悪く、ホームの相手は勢いがある・・・

通常であれば「負けパターン」であるような試合を負けない。格上の相手に勝てないけど、負けない。その時に稼いだ勝ち点1が大きな意味を占めることになるのです。

当然、全ての試合に勝ちに行くわけですが、引き分けることがあるということも選手は学ぶことが出来ます。そこで勝ちに等しい引き分けがあったり、負けに等しい引き分けがあったりするわけです。誰もが300試合公式戦を戦える。次があるから、どんどんチャレンジし、失敗することで学んでいくわけです。それがスペインの土壌を支えているといっても過言ではありません。